

第3回やすらぎ堤デザイン検討委員会資料
平成27年7月28日(火)

区間全体の動線計画および 機能・空間配置方針

1. 信濃川やすらぎ堤の現況把握

■ 動線

○やすらぎ堤の主要動線は天端道路となっており、歩行者・自転車が共用している状況となっている。

○堤内地側の車道は、自動車の交通量が多いが歩道が確保されていない区間がある。

○堤内地側裏法や堤脚部の歩道は、整備されていない区間もあり、連続性は確保されていない。また、利用形態は、歩行者・自転車の通過利用が主となっている。



1. 信濃川やすらぎ堤の現況把握

■ 利用状況

- 堤防天端や高水敷は、散策やランニング、自転車等の線的な利用が主となっている。
- 部分的に配置されている四阿やベンチ等の休憩施設は、多くの利用者がみられる。
- 街側からのアクセスのための階段は、堤防につながる道路のほぼ全てに配置されており、良好なアクセス性が確保されている。



2. 信濃川やすらぎ堤の動線・機能配置の基本的考え方

■動線の基本的考え方

○「堤防天端動線」、「高水敷動線」、「堤内地動線」の3動線について、それぞれの機能に配慮しながら、可能な限りそれぞれの連続性を確保する。

○堤防天端動線 ⇒ 開放感を満喫できる歩行者優先の動線

- ・川辺の景観を満喫できる散策のための動線であり、やすらぎ堤の主要動線として位置づける。
- ・歩行者と自転車それぞれが、安全・快適に利用できる整備を目指す。(*1)

○高水敷動線 ⇒ 水辺を感じる散策動線

- ・散策やランニング等の利用を主とし、自転車利用は制限を行う。
- ・やすらぎ堤の伸びやかな景観を保全するために、舗装園路等は特に設置しない。
- ・船着場やイベントの場など、主たる利用空間では、堤防天端からアクセスするスロープ等を整備する。

○堤内地側動線 ⇒ 安全で快適な通過動線

- ・主として通過利用の便宜を図る動線として位置づける。道路歩道の機能も一体的なものとして整備を行う。(*2)

(*1)堤防天端へのスロープ入口にサインを設置するなど、通過目的の自転車を車道内の自転車レーンに誘導する工夫を行う。

(*1)具体の整備にあたっては「新潟市自転車走行空間整備ガイドラインH26.3」に則って通路形状を設定する。

(*2)道路幅が狭い区間では、歩道に替わる通路を堤防裏法部に配置して、車道内の自転車通行レーン幅を確保するなどの工夫を行う。

2. 信濃川やすらぎ堤の動線・機能配置の基本的考え方

■機能配置の基本的考え方

○背後地との連携や街からのアクセスを踏まえて、利用方法・機能を配置する。

・散策・休息・眺望等の日常利用 ・カフェスペースとしての利用

・イベント利用 ・ファミリー利用(スポーツ、ピクニック) ・水面レクリエーション

・アウトドアレクリエーション ・自然観察・自然学習

○堤防天端および高水敷の線的使用は、動線の考え方に倣って連続性を確保する。

○高水敷利用は、利用方法や機能を限定するような施設整備は行わない。

■各種施設整備の基本的考え方

○トイレ・四阿 ⇒休憩・利便施設は、アクセスポイントの位置や敷地の状況を踏まえながら、できる限り一定間隔に配置する。また災害時に応急利用ができる電源の設置や、断水時にも利用できる防災トイレなど、防災機能の付加を推進する。

○照明施設 ⇒区間全体について、最低限の安全を確保する照明配置を基本とする。各所の利用形態を踏まえて演出照明等の設置を検討する。

2. 信濃川やすらぎ堤の動線・機能配置の基本的考え方

■ 動線・機能配置のイメージ

<高水敷動線>

水辺を感じる散策動線

散策、ランニング等

休憩、様々なアクティビティ

<堤防天端動線>

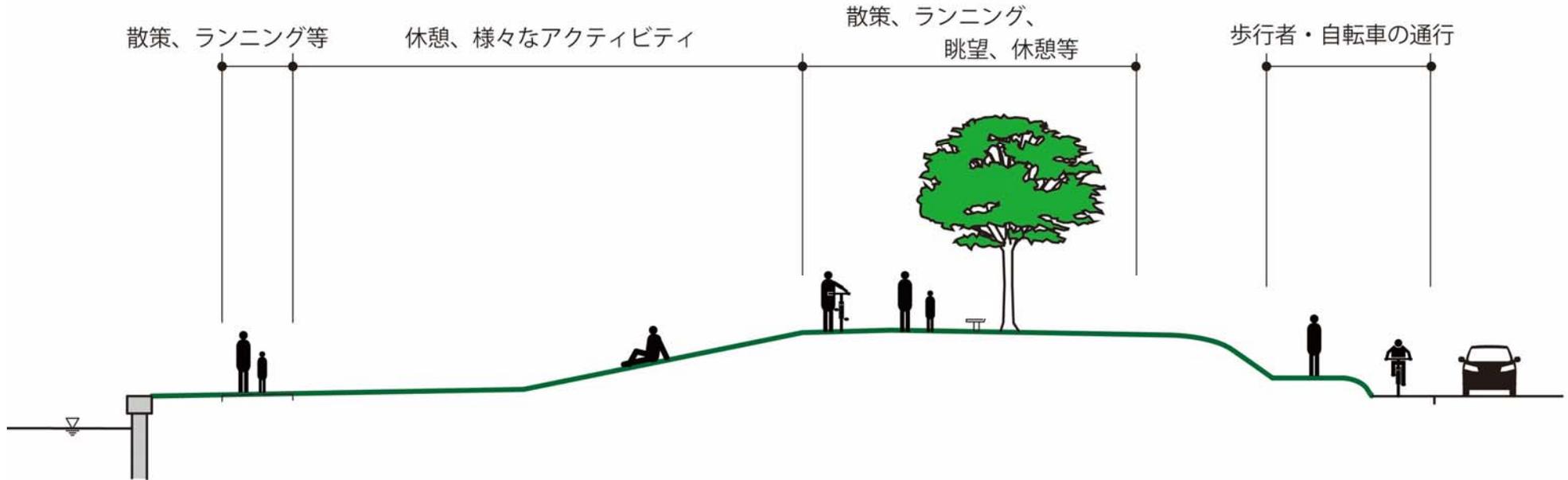
開放感を満喫できる歩行者優先の動線

散策、ランニング、
眺望、休憩等

<堤内地側動線>

安全で快適な通過動線

歩行者・自転車の通行



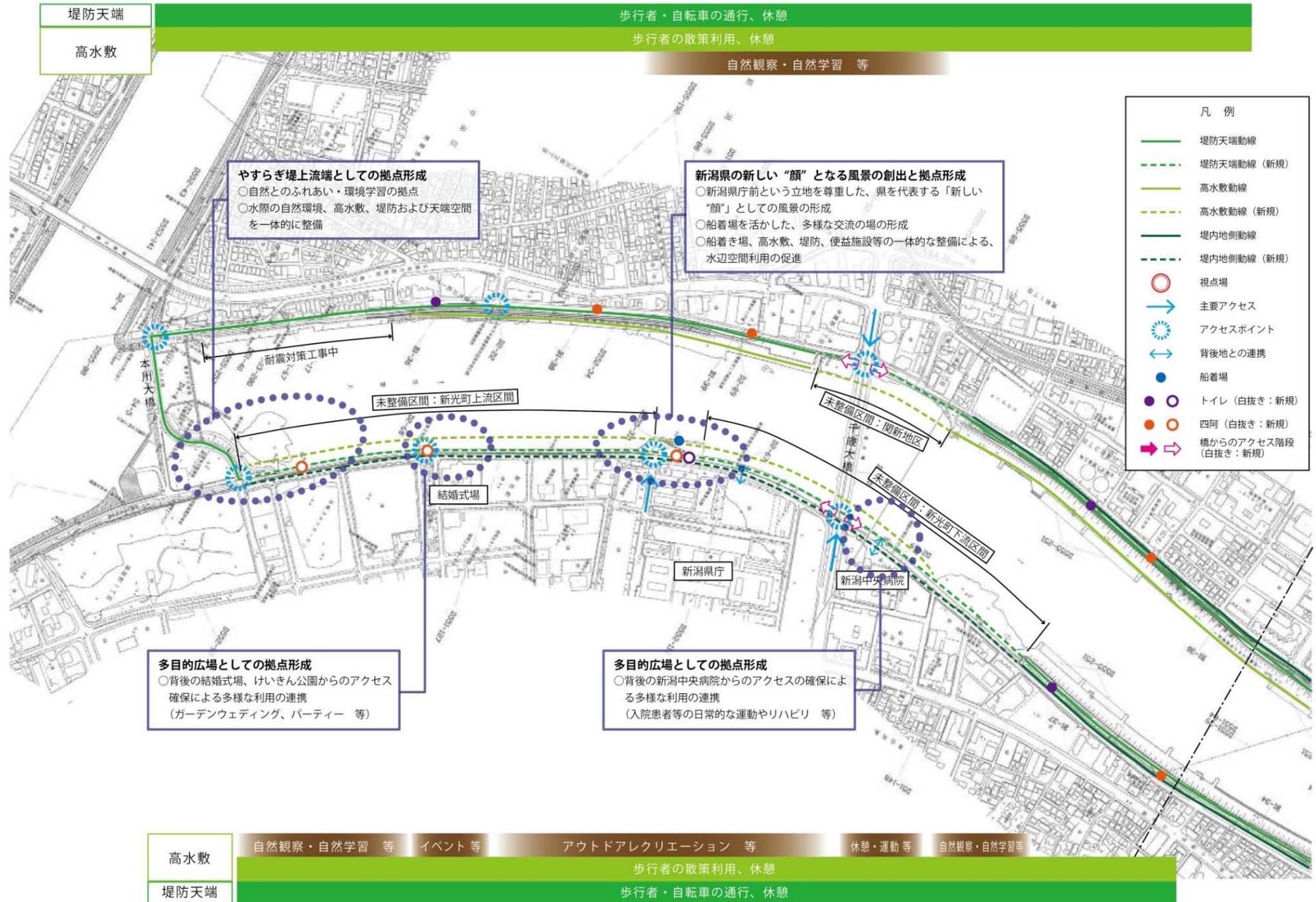
- ・特に舗装は行わず、自然散策や親水利用、ランニング等の利用を主とする

- ・河川空間の開放感を楽しむ空間として、広いスペースを確保する
- ・散策のための歩行者優先の動線とする。
- ・歩行者と自転車それぞれが、安全・快適に利用できるような空間整備を目指す。

- ・主として通過利用する歩行者および自転車の安全で快適な動線を整備する。

2. 信濃川やすらぎ堤の動線・機能配置の基本的考え方

■ 動線・機能配置計画図(1)



2. 信濃川やすらぎ堤の動線・機能配置の基本的考え方

■ 動線・機能配置計画図(2)

